

第13回大会

日時・昭和44年8月20日

コース・嵐山CC

(6,870ヤード・パー72)

●男子の部●

① 清水 剛一 (明大中野高)	78	72	150
② 久富 章嗣 (日大桜丘高)	71	79	150
③ 水野 和徳 (足利学園高)	75	77	152
④ 宮本 勲 (中京高)	76	78	154
④ 窪田 茂 (習志野高)	74	80	154
⑥ 浅川 辰彦 (慶応日吉高)	75	81	156
⑦ 中島 常幸 (桐生西中)	79	78	157
⑧ 藤木 三郎 (海星中)	79	79	158
⑧ 中島 久夫 (立教高)	78	80	158
⑩ 扇本 直人 (慶応日吉高)	78	81	159
⑩ 野村 明良 (鎌倉高)	77	82	159

前半71ストロークの久富選手に対して雷雨にもかかわらず後半72ストロークと追上げた清水選手が150ストロークで並び、勝負は3ホール目のプレーオフに持ちこまれた。久富が連続ボギーで振わず、清水が初優勝。又、中学生ながら中島常幸選手(現プロ)が“怪童”出現とさわがれた大会でもあった。

第14回大会

日時・昭和45年8月24日

コース・嵐山CC

(6,870ヤード・パー72)

●男子の部●

① 石井 隆文 (伊東商高)	78	71	149
② 島田 憲人 (明学東村山高)	76	75	151
③ 船渡川育宏 (浦和岸中)	78	74	152
③ 中島 常幸 (明照高)	78	74	152
⑤ 野村 明良 (鎌倉高)	79	75	154
⑥ D・ナガタ (大和高)	79	76	155
⑦ 鈴木 公典 (東北学院高)	81	75	156
⑧ 島田 幸治 (尼崎南高)	79	78	157
⑧ 藪本 利治 (大阪学院高)	75	82	157
⑩ 藤木 三郎 (名電工高)	78	82	160
⑩ 渡辺賢一郎 (青山学院高)	82	78	160
⑩ 中川 泰一 (日大一高)	80	80	160

●女子の部●

① 今村 敏子 (日大桜丘高)	45	46	44	135
② 竹岡 広子 (白百合高)	44	49	46	139
③ 田中 瑞江 (金蘭会高)	47	49	46	142

この年より文部大臣杯を冠とし、ジュニア競技に権威づけがされた。

下馬評で、西の藪本選手か東の石井選手かと注目されたが、後半の追上げが物をいい、石井選手が149ストロークで優勝、文部大臣杯を獲得した。又女子の部が新設され今村敏子選手が優勝した。

第15回大会

日時・昭和46年8月20日

コース・霞ヶ関CC・西コース

(6,659ヤード・パー72)

●男子の部●

① 木村 憲明 (甲南高)	73	76	149
② スティーブ・ティンキ (大和高)	73	77	150
③ 瀬戸 信朗 (慶応日吉高)	74	78	152
③ 藪本 利治 (大阪学院高)	72	80	152
③ デュエン・ナカダ (大和高)	78	74	152
⑥ ダレル・レゴ (ハワイ)	75	79	154
⑥ パート・ツカモト (ハワイ)	79	75	154
⑧ シャン・パワーズ (ハワイ)	76	79	155
⑧ 藤木 三郎 (名電工高)	78	77	155
⑧ 早川 博巳 (サレジオ高)	77	78	155
⑧ 船渡川育宏 (武南高)	79	76	155
⑧ 脇田 喜人 (川西緑台高)	79	76	155
⑧ 長友 謙 (明大中野高)	74	81	155

●女子の部●

① 吉持 姿子 (西中原中)	39	41	80	160
② 吉川 静江 (慶応女子高)	45	43	88	176
③ 今村 敏子 (日大桜丘高)	43	47	90	180

夏期には珍しく涼しい気候で、午前中73ストロークの木村選手が、36ホール目会心のバーディを決めハワイからの招待選手スティーブ・ティンキをふり切った。又、女子の部で吉持選手(現プロ)が出場し、8ストローク差をつけ、楽に優勝した。又、今大会よりハワイと日本との隔年毎の交流が始まった。

第16回大会

日時・昭和47年8月3日

コース・霞ヶ関CC・西コース

(6,659ヤード・パー72)

●男子の部●

① 内藤 正幸 (玉川学園高)	74	78	152
② 湯原 信光 (西宮中)	74	79	153
② 倉本 昌弘 (崇徳高)	78	75	153
② 内田 淳二 (海星高)	75	78	153
⑤ 藤木 三郎 (名電工高)	78	76	154
⑥ 牧野 裕 (墨田川高)	74	81	155
⑥ 金谷多一郎 (城南中)	76	79	155
⑥ 田口 悟 (早実高)	80	75	155
⑥ 岸 勝彦 (京都西高)	79	76	155
⑨ 萩原 世一 (伊東商高)	77	81	158
⑨ 白浜 郁夫 (富岡中)	79	79	158

●女子の部●

① 吉持 姿子 (京浜女大付横浜高)	40	42	82
② 吉川 静江 (慶応女子高)	42	42	84
③ 安部美月子 (玉川学園高)	52	59	111

男子上位5名がハワイへ派遣されるとあり、迫熱した勝負が展開された。午後には雷雨に見舞われたが、優勝候補の筆頭倉本選手をふり切り、内藤選手が初優勝。又、女子の部では吉持選手が2連覇をとげた。男子の上位5選手がハワイへ派遣されたが中学生から湯原選手が選ばれ注目された。